



**UNITED NATIONS  
UNIVERSITY**

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5 53 70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu)  
Website: <http://www.unu.edu/>

2005年9月12日  
MR/J25/05

メディア用原稿  
非公式記録

## 国連大学、島津製作所 国際会議を開催 東アジアにおける残留性有機汚染物質について

重金属や化学物質による水質汚染は人々の健康および環境に、多大な影響を及ぼします。中でも、長期間、環境中に残留し広範囲に拡散する残留性有機汚染物質は、食物連鎖を通じて生体に濃縮・蓄積され、生態系と健康にリスクをもたらします。

こうした背景を踏まえ、国連大学と島津製作所は9月21日に国際会議「東アジア水圏における環境モニタリングおよびガバナンス: 残留性有機汚染物質(POPs)管理における今後の課題」と題した国際会議を開催します。この会議は、化学物質の中でも特に残留性有機汚染物質の管理に焦点をあて、現在までの取り組みと今後の課題を明らかにすることを目的としています。

(午前9時から。於: UNハウスのウタントホール。講演言語: 日本語 / 英語。同時通訳あり)

午前の基調講演では、国連訓練調査研究所、国立環境研究所、日本政府環境省の代表者により、ダイオキシンやDDTなど12種類の残留性有機汚染物質の使用の廃絶や抑制を目的とするストックホルム条約により定められた指針、および今年5月に開催された第1回条約締結国会議(COP1)において説明されたPOPs審査委員会のレポートについての報告が行われます。

午後は、国連大学の「東アジア水圏における環境モニタリングおよびガバナンス」プロジェクトの成果発表、および国際的に行われている有害化学物質管理の最新の取り組みに焦点をあてたワーキングセッションが行われ、講演者のひとりである、内閣府食品安全委員会の委員を務める順天堂大学の千葉百子教授からは、同委員会のリスク評価過程についての報告が行われます。(先月、千葉教授が発表された評価結果報告書では、妊婦もしくは妊娠の可能性がある女性による魚介類等を介した1週間あたりのメチル水銀の耐容摂取量は体重1kgあたり2 $\mu$ gと報告されました。FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)は2003年に耐容週間摂取量を1.6 $\mu$ g/kg体重/週と提言しています)。また、ハーバード大学・公衆衛生大学院の西岡 祐里佳博士は、リスク評価とライフサイクルアセスメントの融合について講演を行い、その他講演者は、日中友好環境保全センター、フィリピン大学、国立環境研究所からお招きしております。

会議の最後には国連大学の学長と島津製作所の服部重彦社長が出席し、2002年に開始した3ヶ年プロジェクトの第三期の終了を記念するセレモニーを行います。島津製作所の支援により、1996年に開始された当プロジェクトの詳しい内容、および会議のプログラムに関しましては、ホームページ(<http://landbase.hq.unu.edu>)をご参照ください。

本会議には、英語 / 日本語の同時通訳が付きます。一般の参加には、事前登録が必要です。尚、取材およびインタビューをご希望の方は国連大学広報部、担当: 谷野(やの)までご連絡ください。(TEL:03-3499-2811、03-5467-1311、FAX: 03-3406-7346; e-mail: [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu))



国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として、本部(東京)を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。1975年に開設され、今年30周年を迎えました。

MEDIA ALERT